

## 事業報告書（令和7年度）

事業名 地域みんなの居場所 ゆるり

団体名 きよくりゆう地域みんなの居場所実行委員会 担当者名 西田佳名子

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容（日時、場所、講師、参加対象者、人数、内容等）

【日程】6月25日、7月30日、8月27日、9月27日、10月22日、11月26日、12月24日、1月28日、2月25日 いずれも水曜日

【時間】9:30~12:00/14:00~16:30

【場所】旧岡山市旭竜幼稚園

◇毎月

コミュニティカフェを開催/無料スマホ講座開催

今までの居場所には参加しづらかったシニア層を中心に、安心してゆっくり過ごせるコミュニティカフェを開催した。参加費を無料にしたことで心理的ハードルが下がり、新たな参加者の増加につながった。これまで地域行事に足が向きにくかった方々の交流の場となり、孤立予防や見守りの機会創出にもつながった。

また、無料スマホ講座を開催したことで、「少し分からない」「ちょっと聞いてみたい」といった小さな困りごとでも気軽に相談できる環境が整った。継続的に参加する方も増え、単なる講座にとどまらず、地域の居場所としての認知が広がっている。最終日、エア遊具を出しました。



◇7月23日

CREW ゴミ拾い

夏休み期間中、小学生を対象に地域のゴミ拾い活動を実施した。子どもたちは地域を歩きながらゴミを拾い、身近な環境に目を向ける機会となった。

活動を通して、「思ったよりゴミが多い」「きれいになると気持ちがいい」といった声が聞かれ、環境への関心や公共の場を大切にする意識の向上につながった。



◇8月27日

多世代交流 流しそうめん大会

協力：中島シニアボランティアクラブ

令和7年度岡山市地域活動リーダー養成講座 学生受入れ

乳幼児親子・学生・地域のシニア世帯が参加する多世代交流の場となった。

当日は、シニア世代が準備や運営を担い、学生が子どもたちと積極的に関わることで、自然な世代間交流が生まれた。流しそうめんという体験を通して会話が広がり、初対面同士でも打ち解ける様子が見られた。

地域のつながりを深めるとともに、世代を超えた相互理解の促進や、学生にとっては実践的な学びの機会となる有意義な取り組みとなりました。



◇11月26日

Canva 講座

初心者向けのデザインアプリ、キャンバの講座を行なった。



◇12月24日

多世代交流 音楽鑑賞会

旭竜学区 音楽教室 講師：岡本絵理子

乳幼児親子からシニア世代まで幅広い世代が参加し、同じ空間で音楽を楽しむ貴重な機会となった。

生演奏の迫力や美しい音色に、子どもたちは目を輝かせ、初めてこの場で寝返りをした赤ちゃんに、会場にいたみんなで喜び、世代を超えて自然と拍手や笑顔が広がり、音楽の力で心が一つになる温かな時間となった。



## 2. ESDの視点

① 事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか

乳幼児親子、学生、シニア世代が参加し、世代や立場の違いを越えて交流することで、多様性を尊重し相互理解を深める機会となった。

シニア世代や地域ボランティアの力といった地域資源を活かしながら協働し、地域内のつながりを循環させる取り組みとなり、単なるイベント参加にとどまらず、準備や運営に関わる主体的な関与を通して、参加者一人ひとりが地域の一員としての意識を高める機会にもなった。

さらに、世代を超えた継続的な関わりは孤立予防にもつながり、「誰一人取り残さない」地域づくりを進める基盤形成にも寄与している。

② どのように学び合いを取り入れたか

地域の人、子育て支援者と協力し、講座や居場所を作っていく活動の中で、大人だけでなく、子どもも主体で、一緒に成長出来る居場所を作る事で、主体的に考え、実践していくことができた。多世代で情報を共有し、身近な地域の問題を学び合う事が出来た。

③ どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか

多世代が互いに学び合う場づくりを意識して実施。一方的に教える・教わる関係ではなく、乳幼児親子、学生、シニア世代それぞれが役割を持ち、対話や協働を通して学びが生まれるよう工夫した。多様な立場の人が相互に影響し合いながら学ぶ環境を整えることで、「共に考え、共に行動する力」を育む実践的な学び合いを取り入れました。

3. 取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）

・参加人数の把握

広場延べ人数 348 名

大人 121 人（うちシニア世代 32 人）、子ども 227 人

◇流しそうめん大会

親子 4 組 14 人、小学生 11 人/地域スタッフ 8 名/学生 19 名

◇CREW ゴミ拾い

大人 2 名 子ども 15 名

◇キャンバ講座

大人 3 名 子ども 1 名

◇多世代交流 音楽鑑賞会

大人 25 名 子ども 15 名

参加人数は多いとは言えないものの、シニア世代にとっては、日常の中で気軽に立ち寄ることができる、気軽に困りごとを話せる居場所となった。

また、地域の中でゆるやかに関係を築ける機会となり、子どもたちや孤立しがちなシニアの方の、継続的な見守りや支え合いの基盤づくりにも寄与した。

4. 今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）

シニア世代の中には、現役で忙しく過ごされている方も多く、具体的な用件がないと居場所に足を運びにくいという課題を感じた。

(様式第8号)

今後は、細く長く継続できる居場所づくりを第一の目標とし、幼稚園が地域にとってより身近な存在となることを目指したい。

また、貧困や産後うつ、孤立しがちなシニア層にとって、安心して過ごせる居場所となるよう取り組んでいく。